

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	(有)しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2		
自己評価作成日	平成22年9月5日	評価結果市町村受理日	平成22年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193300015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①年に1度法人のグループホーム3施設で普段は行けないところへの日帰りバス旅行を行っている。②ボランティアの協力も得て地域の方や家族の方と一緒に過ごす機会を作っている。③日々の暮らしや生活リハビリの様子を写真にして掲示している。それを繰り返し見て話題にしたり、廊下での歩行練習誘導につなげたりしている。④生活リハビリに慣れ親しんでみえた畑作業や、山菜の処理、豆の殻むきなどを取り入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>毎月発行される「しましまハウス」便りは、利用者の日常の様子、地域の子どもを始め住民との交流風景が記載され、笑顔が満ち溢れた、暮らし振りを知ることができる。便りは、利用者の家族に送付され、安心と信頼関係を築いている。地域とのつながりから、住民の依頼による大豆・小豆の皮むき、梅干し漬けなど貯蔵食品の作業を行い、冬場に向けてた保存食づくりでは、利用者から英知を学び、温もりも伝わっている。管理者・職員は、「自分の親を入れたい、自分が入りたいホーム」を目指し、日々学びあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の下、年度毎の介護目標も立て入居者にとって、居心地の良い家庭的なホームを目指して職員全員で日々取り組んでいる。	「やりたいことをわがままととらえず、余生を楽しくサポートする」の理念を、職員は昼食後のミーティングで、日々確認し、共有している。常に自分の親を入れたい、自分が入りたいホームに立ち返り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しそれぞれの情報を共有している。ホームの行事には積極的に声をかけを行い地域との交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板などで地域の情報を得ると共に、ホームの行事への参加を依頼している。施設内には体育館があり、地域の行事も多く、ダンスや日本舞踊などが頻繁に行われており、地域の行事に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム行事等参加への声をかけ気軽に参加していただき、施設のあり方をそのまま見ていただくことで認知症の理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近隣の方、民生委員、調査部長、家族、飛騨市介護保険担当者、時には施設修理に見えた方にも参加していただき、サービスの状況を報告したり情報交換し意見等を聞きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、民生委員、行政、家族、利用者、消防、駐在などが参加し、利用者の様子や現状などを報告している。施設修繕の関係者が参加することもあり、地域の力を借りたり、利用者ができる手作業の依頼を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会には毎回出席を得、相談、指導も仰ぎながら積極的に協力関係を築けるよう常に意識して取り組んでいる。ミーティング時の話題としても気軽に出すように	困難な事例の指導を受けるなど、日常的な連携を密に取っている。特に土砂崩れの警戒地区にあたっているホームとして、行政の協力を得、非常時の対応など詳細に学習を重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や意見交換を行い、理解をした上で拘束を行わないケアに取り組んでいる。が夜間は」玄関の施錠は行っている。又、玄関ホール部分の一部危険な箇所には一時的に柵にて対策を行っている。	職員は理念を基に、自分の親だったら、自分だったらの原点に戻り、身体拘束の排除について学習が行われている。人権を守り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待について学んでいる。職員間で情報交換をしながら虐待防止に努め、見過ごし防止を行っている。ミーティングの話題としても出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度を理解している職員は少なく、今後内部研修、勉強会等で全員が理解できるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約には契約者と十分話し合い説明を行い納得していただくよう努めている。又、契約改定時には再契約確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族、利用者も参加していただき意見を運営に反映させている。又、意見箱を設置したり面会時の会話からも情報を得て、より良いサービスが提供できるよう努めている。	「訪問者記録」の中に、ホームへの感想、ホーム職員への要望をできる限り記入してもらい、意見が出やすい工夫をしている。利用者の家族から利用者にしてできる手作業を依頼され、それらが、利用者の生き甲斐となる場面づくりを提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議、日々のミーティング等により職員の意見交換行っている。改善点は早急に改善できるよう計らっている。	職員の気付きや意見が出やすい環境である。ミーティングで消臭剤・介護用器財の収納場所など安全面での提案を受け、全職員が参加し、整理を行い、安全の確保を図ることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休日には特に配慮し個別の相談にも応じている。又、勤務体制に不具合が生じた場合も全員で話し合い改善していくような体制が出きている。就業規則整備も序所に進んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には順次参加し、個々が必要な研修にも参加出来る環境である。資格習得にも協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、ケアマネ会議等で交流を図っている。又同経営のホーム間でも交流会を行っている。ボランティアさんの協力で絵手紙のみの交流ではあるが行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者一人一人に対し毎日の会話を増やし本人の気持ち・訴えを理解し受け止めるように努めている。納得されるまでゆっくり聞き安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、思いを受け止め可能な限り要望に沿えるよう、家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談しながら、その場面に応じた支援やサービスのアドバイス、紹介ができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々ができること、又得意分野を生かしお互いに信頼できる関係を築き共に学び合い支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のないところで面会に来ていただく様お願いしたり、ケアプラン見直し時、たより、電話連絡時など可能な限りホームでの様子を伝え情報が途切れないように努め、いつも関係を持っている状況作りに心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は歓迎しているが、場所的に外出は難しく家族等に依頼することもある為手紙での交流をすすめていたりしている。又行事には地域の方の協力もありその都度交流が出来馴染みとなっている。	ホームの体育館で行われる、地域のイベントやホームの行事に、馴染みの人の参加が多く、利用者は、地元の人達と交流し、繋がりを継続している。手紙での交流も、職員が手伝い、利用者から笑顔で報告を聞いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に作業したりそれぞれ得意なことを見つけ出し入居者同士が関わり合い協力して出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしぶり等の情報を伝えその日から本人が戸惑われないように継続的なケアが受けられる様支援している。、又、いつでも相談して頂けるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族在宅時のケアマネさんより情報を聞き本人の歩んできた人生、入所前の生活なども重視して、その人らしさを失わず生活していける様努めている。	利用者の思いや意向は、介護計画作成時の聴き取りや、日々のケアの中で傾聴し把握している。寄り添う支援を大切に、思いを受け止め、一人ひとりがその人らしい生活ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より入居前の生活環境、生い立ち等聞き取りを行っている。入居後も会話の中から、面会時の方のお話から聞き取りサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活スタイル、職員との会話や心身状態等を介護記録に残すことで職員間で情報を共有し把握できるようにしている。又、ほぼ毎日行っているミニミーティングでも情報を伝え合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回必要時はその都度モニタリング・ケア会議を行い家族・本人・主治医の意見も参考にしながら計画作成に当たっている。面会票にも記入欄を作り家族が伝えやすいような工夫を行っている。	担当者を中心に、全職員でケア会議を月1回開催し、随時モニタリングをしている。家族、利用者、主治医及び関係者の意見を聴き、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日課表を毎日午前・午後・夜間と記録し職員間で情報を共有したうえで日々のミーティング等で意見交換し日頃のケアに活かし又、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに沿った支援(散歩・畑作業・山菜とり...)を心がけているが地域柄困難な面もある。又、誕生会では本人の希望するメニューに応えたりして取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント時には全員で会場の掃除、準備等に取り組み盛り上げている。又地域のバラ園や流しそめんにも出かけ暮らしを楽しめるよう支援し、地域の方にも理解を深めて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に家族からかかりつけ医の確認を行い家族の協力を得る必要時は受診をして頂いている。又ホームでは2週間に1回提携医の往診も受けている。法人代表が歯科医であるため必要時治療・かかりつけ医へつなぐなど行っている。	協力医による月2回の往診があり、全員が診察している。緊急の場合は、ホーム職員が受診対応している。協力医以外の診察の場合は、基本的には家族が同行することになっている。法人代表が歯科医であり、必要に応じ往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を記録し情報が共有できるようにしている。ミーティング時にも報告・状況説明を行い緊急時にもすぐ連絡が取れる状態であるため適切な受診看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会を行ったり、家族から情報を得たり又地域連携室との関係も持ち病院との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で出来ること・出来ないことを家族に説明し理解していただいている。又家族の意向を確認し対応できるようにしている。	家族、利用者、関係者、協力医療機関の主治医などが話し合い、主治医の判断に委ねている。入居時にホームとして出来ること、出来ないことを説明し、当事業所では、看取りは出来ないことを説明し、確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は冷静に対応できるようデータベースを整え備えている。応急手当等は内部研修やミーティングでも学び合っているが今後は定期的に実践力を身に付けていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜や問わず避難出来る様入居者を交えて勉強会・訓練を行っている。消防署の協力も得て訓練も行っている。水害等の避難手順等については市の担当者の協力をえて勉強会を始めているところ。	消防署の協力の下、火災・水害の避難訓練を、昼夜を問わず、利用者を交え行っている。土砂災害危険区域であり、地元住民と共に、市の総務課担当者によるマップ等を活用した勉強会を実施した。	土砂災害についての学習会が実施されているが、住民合同での避難訓練も計画中であり、その実現に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保や、人格を尊重する言葉かけ等は内部研修や日頃のミーティングの中でも話し合い職員間で確認しあっている。今後も研修を行い常に意識確認して行くことが必要と思われる。	利用者に合わせて、誇りを損ねない言葉かけに努めている。日頃、職員の気付きを、ミーティングや研修の題材として意見交換を行い、人格を尊重し、プライバシーの確保に向けた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で自己決定出来る様サポートし又意思表示が難しい入居者には筆談や言葉で誘導するなどし本人の希望を把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調、希望に合った過ごし方が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性を尊重し希望に応じてヘアカット等もするなどしている。又馴染みの美容院等ある方には家族と連絡を取り出掛けて頂くなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニュー書き、下ごしらえ、テーブル拭き、下善、食器洗い等出来ることを職員と一緒に取り組んでいる。又食事を入居者と職員が同じテーブルで同じメニューを食べている。食事は明るい雰囲気の中でと考えているが誤嚥予防の為集中して摂って頂くよう心がけている。	自分たちで収穫した野菜を食材とし、利用者の経験を学びながら、利用者と共に準備することもある。職員が、同じテーブルで共に食べることで、固さや味付けなどで話題がはずみ、楽しい雰囲気でゆったり食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後の体重測定で本人の栄養状態等把握し栄養士が立てた献立を使用しカロリーバランスをとっている。個人に合わせてきざみ・とろみ・お粥等対応している。午前・午後のおやつ時も十分水分が摂れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行い一人ひとりの能力に合わせて手順等の声かけ・見守りを行っている。又毎月10日・20日・30日には義歯洗浄を行っている。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライドを傷つけない様一人ひとりに合った声かけを行い誘導している。夜間も可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。又、日常のミーティングで話し合いパット類の使用を減らせるよう努力している。	トイレが居室から離れているため、夜間は安全のためポータブルトイレを設置し、昼間は撤収している。排泄パターンに基づいたさりげないトイレ誘導により、パットの使用を減少する取り組みを進め、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多くし食事を工夫し体操・歩行練習などの運動を促し自力での排泄が出来るよう支援している。それでも解消できない場合は看護師に相談し浣腸、服薬等で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日時間等希望どうりには無理な場合もあるが、順番等配慮しながら気持ち良く入浴して頂けるよう支援している。入浴拒否の時もあるが実践の中から話し合い気持ち良く入られる工夫をしている。入浴が無理な場合清拭を行っている。	朝・夕、汚れた部分の清拭を行い、入浴は週2回支援している。入浴拒否の利用者には、今までに成功した例を試み、無理なく入浴を進めている。浴槽が広く、温泉気分でゆったり楽しむことが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを重視し安心して休める様支援している。夜間もそれぞれのリズムに合わせて休んで頂ける様入睡前ホールで会話を楽しんだりして安心して眠れるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能は看護師より説明を受け理解している。飲み忘れや間違いがない様注意を払い、体調変化も記録に残しその都度看護師に指示を仰ぎ対処している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野(畑、裁縫、塗り絵など)も活かしその人らしく過ごして頂けるよう支援している。、又日々の会話の中から記憶をたどり自宅にいる時と同様に楽しんで頂ける様努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら外気浴、畑仕事等積極的に外へ出られる様にしている。又家族と連絡を取り外出を支援するようにしている。	ホーム周辺を毎日散歩している。自然に恵まれ、季節ごとに、ワラビやゼンマイなどの山菜採りに出かけている。畑での野菜作りなど野外活動が多く、外気浴の機会が多い。普段行けない所へは、家族と協力して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望で5千円以内であれば所持していただき安心につなげている。事業所として小口金をお預かりしているが、入所時に説明し了解していただいている。毎月報告も行い記録も確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の状況、入居者の状態等配慮しながら電話、手紙等で外部との交流が出来る様支援している。FAXも使用し家族とのつながりが継続できるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の靴箱には混乱を防ぐため名前を付けている。トイレ等入居者の目線に合わせ大きく書いている。施設内には季節の花を飾ったり、季節の行事を取り入れたり季節を感じて頂ける様努めている。廊下には楽しかった写真などを貼り皆で会話を楽しめる様工夫している。	玄関が広く、利用者がいつでも出かけることができるよう、靴箱が利用者の目線に合わせて設置されている。利用者の手づくり花瓶に、季節の生花を入れ、共用空間の随所に置いてある。廊下には、行事の写真や貼り絵を掲示し、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のコーナーに椅子を置き、気の合った方が会話を楽しめる様にしたり、ソファスペースや畳スペースを設け気軽に休んだり好きなように過ごしていただける様配慮している。玄関先にはベンチを用意し外気浴も出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人の使いなれた家具等持ち込み居心地良く過ごしていただける様努めている。各部屋には大きな窓、エアコンも設置している。各部屋の戸を開けた時全体が見えてしまわない様のれんを掛けるなどプライバシーにも配慮している。	入居時に、家族と共に持ち込まれた使い慣れた家具や思い出の写真が飾られ、好みの部屋が作られている。プライバシーを守るのれんが掛けられ、居室の窓からは、自然豊かな景色を見渡すことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて必要以上の介助を行わない様サポートしている。又危険防止の為声かけ見守りを徹底する様にし安全を確認しながら自立した生活が送れるよう支援している。		